

全体を通して、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

- 今後とも急な学校見学をお願いすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。
- 龍昇経理情報専門学校様にはいつも大変お世話になっております。
温かな雰囲気の中で、個に寄り添っていただきながらの教育活動に期待をしております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。
- 龍昇経理情報専門学校の先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。
また、説明会で子どもたちの頑張りや自信に満ちた表情、先生方の温かさに触れると今の自分をふりかえる時間になります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

18

3-8 山口県（担当校：立修館高等専修学校）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

高等専修学校の学びの「セーフティネット」

令和3年度 地域連携委員会（山口地区）実施報告

開催校 学校法人下関学院 立修館高等専修学校

1 地域振興分科会について

1.1 委員会のテーマ

山口県の中学生および中学校教員の高等専修学校に対する認知度や理解度を高め、高等専修学校における学びのセーフティネット機能の向上を図る。

1.2 全体スケジュール

行程	委員就任依頼	第1回委員会	アンケート依頼	アンケート集計	第2回委員会
日時	9月1日	9月29日	10月11日	11月7日	12月15日
内容	依頼状、承諾書、旅費交通費領収書を送付し、返送書類を受理	1.高等専修学校の概要 ①文部科学省…「知る専」	1.目的：高校 e スポーツ教育における参考資料の一助とする	回答をグラフ化および統計処理	1. 文科省キョソ礼 2. アウト結果 3.レビ 山口(tys)で取り上げられ

	②NHK で取り上げられた立修館 ③yab で取り上げられた立修館 2.立修館の近況 3.アンケート説明 4.意見交換	2.対象：下関市立川中中学校、宇部市立上宇部中学校、山陽小野田市立小野田中学校の教員及び2年生 3.方法：グーグルフォーム	た立修館 4.山口県eスポーツ協会のYoutube で取り上げられた立修館 5.意見交換
--	---	--	--

1.3 地域振興分科会委員

No.	氏名	所属
1	水野久敬	山口県総務部学事文書課 課長
2	白井雅晃	山口県教育庁教育政策課 課長
3	児玉典彦	下関市教育委員会 教育長
4	野口政吾	宇部市教育委員会 教育長
5	長谷川裕	山陽小野田市教育委員会 教育長
6	網本徳文	山口県中学校校長会 会長
7	川畑誠治	下関市中学校校長会 会長
8	藤井一憲	宇部市中学校校長会 会長
9	山本時弘	山陽小野田市中学校校長会 会長
10	中川和彦	教育支援教室かんせい 教育相談員
11	山田耕三	教育支援教室ふれあい 宇部市教育支援課 課長同格
12	長友義彦	山陽小野田市こころの支援室 室長
13	関谷豊	立修館高等専修学校 理事長
14	関谷慶子	立修館高等専修学校 校長
15	山田靖浩	立修館高等専修学校 教頭
16	福田佳菜子	立修館高等専修学校 教員
17	板垣聡美	立修館高等専修学校 教員
18	奥村翔太	立修館高等専修学校 教員

2 第1回 地域振興分科会 実施報告

2.1 実施概要

実施日時：令和4年9月29日(木) 14:00~15:30

実施場所：立修館高等専修学校

2.2 参加委員

出席者	学校名・役職名
児玉典彦	下関市教育委員会 教育長

山田耕三	教育支援教室ふれあい	宇部市教育支援課	課長同格
佐々木智子	山陽小野田市こころの支援室職員		※長谷川裕の代理
波多野敏郎	山口県中学校校長会	副会長	※網本徳文の代理
川畑誠治	下関市中学校校長会	会長	
藤井一憲	宇部市中学校校長会	会長	
和田敏明	山陽小野田市中学校校長会	副会長	※山本時弘の代理
中川和彦	教育支援教室かんせい	教育相談員	
辻野朋子	山陽小野田市こころの支援室職員		※長友義彦の代理
関谷豊	立修館高等専修学校	理事長	
関谷慶子	立修館高等専修学校	校長	
山田靖浩	立修館高等専修学校	教頭	
福田佳菜子	立修館高等専修学校	教員	
板垣聡美	立修館高等専修学校	教員	
奥村翔太	立修館高等専修学校	教員	

2.3 高等専修学校の特徴および立修館高等専修学校の近況について

※動画と資料を用いて説明

2.4 アンケート内容

※資料を用いて説明

委員との意見交換

児玉典彦委員	学校で不登校になる子どもはいろんな要因があるんですが、授業が分からないことが大きな要因になります。中1の壁と言われる分数や小数が理解できないと授業についていけない、そういった子どもがここに入学した時に、学び直しについては行っているのでしょうか。
関谷豊委員	学び直しについては行っております。支援学級から来る生徒さんがかなり多くおり、中には、時計が読めないという生徒がいます。そういう子たちは授業を受けてもついていけませんので、アテンドクラスという別室教室を設けております。簡単な数学や英語を中心にやっております。もう一つ、不登校で怖いのは引きこもっちゃうことです。親御さんもそれを一番心配しております。ですから、とにかく家を出なさいと、そしてアテンドクラスでマンツーマンの先生で対応しております。
山田耕三委員	支援教室に通いながら高校受験をして卒業される子どもさんもいらっしゃるのですが、その子どもさんはいろんな情報を知りたいということで、立修館さんが卒業後の一つの選択肢としてあることを、子どもさんとか保護者に知っていただくというのはとても良いことだと思います。進路の一つとして、宇部市から進学している生徒さんもたくさんおられますので、市教委としても個別指導の仕方として参考にさせていただけるんじゃないかと思います。

波多野敏郎委員	アンケートですが、うちの学校はロイロノートを使っております。学校で取るアンケートは、ロイロノートの中で一気に集計までできるようになっていますので、そういうのも可能なのかなと。ペーパーでやるよりは早いかもしれないなと思います。
和田敏明委員	中学校の教員は補助金の理解が出来ていなくて、いつどのようなお金がかかって、そこにどのような補助があって、入学後はどのような支援金が出る、というのが分かりやすいような資料をいただけるか、教えていただけると、今後こちらを希望している生徒の家庭や本人と相談がしやすくなると思います。生徒向けのアンケートについては、進路希望ということであれば3年生だと思えますし、1年先を考えて進路を少しずつ考えていくというのであれば2年生がいいと思います。
藤井一憲委員	先ほどの(動画の)子どもさんたちというのは、公教育の中では光を発することが出来なかった子だと思うので、外から引っ張って牽引していただくのはありがたいという風に感じている次第です。今後とも私たちのほうでも、高等学校では光が放てない子どもたちをお願いしたりすることもあると思います。そういった生徒たちの光を放っていただきたいと思います。
川畑誠治委員	下関市内の中学校も不登校生徒が大変多く、校長会でも不登校の対応を取り上げて、みんなで議論をしているところです。今日、理事長先生のお話を伺って、まさにこういう話を全校長が聞けたらいいなと強く思いました。現場で第一線で働いておられるお話でも構いませんし、ぜひ中学校の校長または生徒指導主任の前とかで、こういうお話を聞かせていただければと思います。
中川和彦委員	いろんな学科やコースがあって一概にはまとめるににくいかもしれないんですけど、ここを卒業した後、どういった道を歩むのかを、教えていただける範囲で教えていただければと思います。
関谷豊委員	普通の高校と一緒に、各大学や専門学校、あと就職もばらばらで、けっこういい企業にも入っております。今年は(進路確定者が)100%にはなりませんでしたが、90%以上は進路を達成しております。
辻野朋子	こういう行き場所があるのは大変うれしいです。発達障がいの子も何人かいらっしゃるということなので、普通学校では難しくても、似たような子が集まる集団であれば過ごしやすいと思いますし、先生方の支援はどのようにあるのかなと、どうやったらうまくいくのかなと思いつつ、本当ありがたいなと思いました。
佐々木智子委員	子どもたちと関わる中で、この学校はすごいなと思ったのが、やはり自分の

板垣聡美委員	<p>好きなことや自分の得意なことを肯定的に認めていただいて、学校に復帰するのではなくて社会で自立できる力をつけていることが、見習わなければならないなと思いながら見させていただいております。eスポーツとしてのメリット・デメリットをなるべく理解していきながら子どもたちに知らせていけたらなと思いました。</p> <p>eスポーツを考えた時に、ただのゲームでしょ、と考える人もいらっしゃいますし、それにハマることによってゲーム依存症になる子どもも増えていきます。ただ、それを部活動にすることによってメリットが生まれるのではないかと思います。一人でゲームをする必要がなくなる。目の前にいる仲間を見ることで実際に得られるものは、やはり画面越しだけの関係というものではなく、リアルな人間関係が築けると感じております。また、家で一人でゲームをしていると暴言が出ることがあります。しかし、部活動では（暴言は）出ません。一緒に戦う仲間がすぐそばにいたので、暴言にしなくても気持ちを分かってくれて、相手を気遣う心が生まれていることが目に見えております。部活動にすることで一番良かったと思うのが、コミュニケーション能力の向上です。私は勝つことにはあまり重きを置いていません。それよりも仲間を支えあってみんなで協力して一つプレーを作っていく、それを管理するだけの仕事と考えております。</p>
関谷豊委員	アンケート調査につきましては、川中中学・上宇部中学・小野田中学の先生方にご協力いただきまして、波多野先生が言われたロイロノートでやるということでもよろしいでしょうか。
板垣聡美委員	GoogleFormでもよろしいでしょうか。
波多野敏郎委員	大丈夫だと思います。

2.5 まとめ

アンケートにご協力いただく中学校からの承諾とその方法や対象を再考し、下関市近郊の中学校へのアンケート調査を実施する。次回はその結果報告、及びその後の立修館高等専修学校の状況報告をして今年度の会議を終了し、報告書にまとめる。

2.6 資料



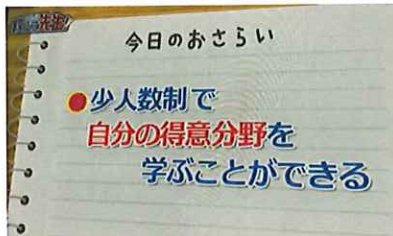
取組のポイント【立修館高等専修学校】

- 1 高等専修学校としての特色**
・専攻と実力の向上、少人数の授業で、一人ひとりの能力にあわせて教育や指導を求めています。
- 2 修得できる能力・技術**
・社会実体の研究指導、介護福祉士資格取得（卒業時）、洋裁技能士、家庭科科長、中学校卒業の指導
- 3 学校の工夫（学修・生活指導・施設活用）**
・自由と自己責任、自然が教壇が学びの場を伸ばしています。
・地域への貢献は必要不可欠。社会福祉の場での実践活動を行います。
- 4 感謝状への対応**
・贈呈の回数、数量を大切に下さる御礼の品、贈り物の準備、挨拶指導、マナーのフォローなど一歩一歩の感謝活動。
- 5 生徒の学校生活への対応**
・贈り物を渡し、感謝を伝えていくことが大切です。
・自分の学びたいことや得意な、いろいろな得意な得意なところがある。
- 6 中学校の先生や中学生へのメッセージ**
・自分の目指したい将来と合わせた進路指導や、いろいろな得意な得意な得意な学校です。少人数制授業でしっかりと授業内容を教えます。是非お話しください。

※文部科学省「知る専」



※NHK で取り上げられた立修館動画



※yab 取り上げられた立修館動画

3 第2回 地域振興分科会 実施報告

3.1 実施概要

実施日時：令和4年12月15日(木) 14:00~15:30

実施場所：立修館高等専修学校

3.2 参加委員

北山博士	山口県総務部学事文書課 主幹	※水野久敬の代理
今田隆之	山口県教育庁教育政策課教育企画班	※白井雅晃の代理
中尾琢磨	下関市教育委員会学校教育課	※児玉典彦の代理
山田耕三	教育支援教室ふれあい 宇部市教育支援課	課長同格
波多野敏郎	山口県中学校校長会 副会長	※網本徳文の代理
川畑誠治	下関市中学校校長会 会長	
藤井一憲	宇部市中学校校長会 会長	
山本時弘	山陽小野田市中学校校長会 会長	
中川和彦	教育支援教室かんせい 教育相談員	
関谷豊	立修館高等専修学校 理事長	
関谷慶子	立修館高等専修学校 校長	
山田靖浩	立修館高等専修学校 教頭	
福田佳菜子	立修館高等専修学校 教員	
板垣聡美	立修館高等専修学校 教員	
奥村翔太	立修館高等専修学校 教員	

3.3 アンケート調査の結果報告

※パワーポイントと資料を用いて説明

3.4 高等専修学校の特徴および立修館高等専修学校の近況について

※動画と資料を用いて説明

3.5 委員との意見交換

北山博士委員	今後、このeスポーツが注目されて生徒さんがたくさん入ってこられる中で、これに伴う心配事や、それに向けての対応等があればお聞かせ願えればと思います。
--------	---

関谷豊委員	今後、校舎の下の 2000 坪の土地を購入しまして、新しい学科として校舎が造れないかということで動き始めているところです。そうすれば定員があと 10 人ないし 15 人、確保できるんじゃないかなと考えております。
今田隆之委員	e スポーツの教育的な効果とか、ゲームと何が違うのかとか、内輪の中でもかなり議論になりました。そういったところで、e スポーツの教育効果をどのように伝えていけばいいのかと考えておりました。ご紹介していただいた動画を県教委のほうでも観ていただいて、e スポーツの可能性を探っていきたいと思います。
中尾琢磨委員	いろんな問題を抱えている子たちが入ってきていると思います。生徒対応の中でもここが一番難しいという内容で、教員間で共通理解しているものがあれば、活躍の場とか認めてもらえる場を設定する以外で、何かあれば教えていただければと思います。
関谷豊委員	数年前から、稲盛和夫さんという、京セラを創立された方で、京セラフィロソフィーというのがあって、この勉強会を年 3 回やっております。来年に向けて下関学院フィロソフィーというのを作って、勉強会をやっています。あと発達障がいへの対応で、今年は山口大学教授の心理学の先生に、夏休みに教職員に授業をしていただきました。発達障がいの対応の仕方とかを勉強しました。そういったものが一つずつ教職員に植え付けられていって、対応ができていのではないかと思います。
山田耕三委員	立修館さんからヒントになることがたくさんありますので、今後もさまざまな新しい試みをされるのを参考にさせていただいて、行政のほうにも役立てていけたらなと思います。あともう一つは、文科省の委託事業の委員ということで、全国的な成果とか結果とかも含めて、今回の分科会も、どういうことに繋がっていくのかということも参考にさせていただければと思います。
関谷豊委員	すべて報告書にまとめて文科省に提出して、文科省が印刷物にして出しております。今年度は印刷物のうちのところを委員の先生にお送りさせていただきますので、ぜひ見られてください。3 カ年事業ですので来年が最終の年になります。最後は報告会の形になりますので、よろしくお願ひします。
波多野敏郎委員	e スポーツのコースをつくれるということで、昨年度から言われていたと思うんですけど、私の中で e スポーツって何だろうかと、ゲームとも違うし、その辺りを保護者とか教員とかから聞かれることがあると思うので、e スポーツの定義はどういったものになるんでしょうか、教えていただければと思います。
板垣聡美委員	IT 機器を使って、何かテーマを決めて競技をして勝敗を決める、というのが e スポーツの一般的な定義になっております。ただ、教育的な定義となると、私

	<p>は一つのツールとして考えておりました、e スポーツを使ってどんな教育ができるのかを日々考えております。例えば ICT 技術を身につけることも大きな意味がありまして、ヘッドセットと呼ばれる機材を自分で接続し、正しく起動するように設定しないとイケない、これを自ら調べたり考えたり相談したりしながら使える状態にすることも、自然と身につけているのかなど。あとコミュニケーションに関しても、今うちの部活では、オンラインでプロコーチングを受けさせていただいています。自分のゲーム内の状況をプロの先生にきちんと伝えて、こう上手になりたいです、というふうに、プロの方とコミュニケーションを取ろうとする。それで上手くなって自信になる、という構造も見られています。なので、なかなか一言で e スポーツとは、というのを説明するのは難しいんですが、そういうツールを使って様々なことが提供できる場が作れていると思います。</p>
川畑誠治委員	<p>アンケート結果の報告について、本校も参加させていただいたんですが、これを下関市内の中学生に対して、あるいは教職員に対して、立修館さんから何かメッセージがあればぜひいただきたいなと思います。いわゆるアンケート結果を踏まえた考察のようなものをもらえたらいいんですけど。</p>
関谷豊委員	<p>報告書にまとめて文科省に出す際に先生にお送りします。</p>
藤井一憲委員	<p>e スポーツはあくまでも手段で、目的は社会に出て通用するような人格を形成していく、ということがブレずにやってらっしゃるところが素晴らしいと思いました。アンケートを取って何が見えてくるのかをしっかりと整理する必要があるなと思って、こんな風に教育効果を求めていって、仮説というか、こんな効果があるんじゃないかというのを整理されて、それを検証していく。その元データになるといいのかなど。</p>
関谷豊委員	<p>来年の構想といたしまして、最終の年になりますので、3 年間の成果として、中学校時代はこうだった生徒が、立修館に来て、e スポーツを通じてこのように変わっていった、3 年間で出口がこうなりました、という事例を2つ3つ紹介させていただこうと思います。それを見ていただいて e スポーツの効果を結論として発表させていただければと思います。</p>
山本時弘委員	<p>立修館に入って子どもたちがやりたいことを見つけて、それに夢中になっているという環境を作られているというのがすごくいい効果になって、意欲的にやりたいということを伸ばしていらっしゃるところが、自信につながっているのかなと感じます。3 年前に生徒が国体予選に参加し、それからわずかな期間で世界大会3位4位という実績を作られています。顧問の板垣先生は、こういったことで何かスキルを持っておられたのかなど。それとオンラインでプロコーチングを受けていると、こういった予算とかもお尋ねしたいのが一点、それから西京銀行の頭取さんが来て表彰されておられたというので、この e スポーツ</p>

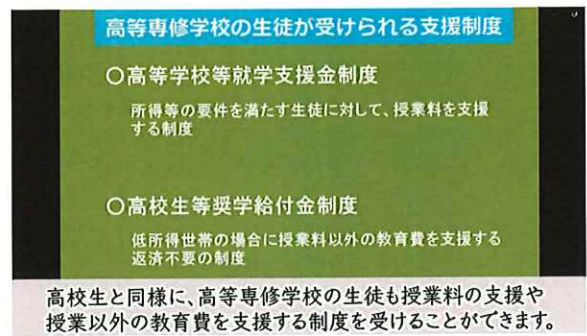
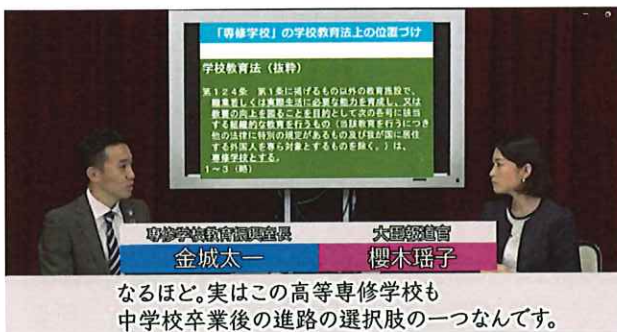
<p>関谷豊委員</p>	<p>が就職とか企業からどのような評価を受けていらっしゃるのかなというのを知りたいなと思いました。それから2023年にeスポーツコースを新設されることで、部活との差別化はどのような形になるのかなと思います。最後に、推薦入試と一次専願入試で100名の生徒が来る学校は中々ないと思うんです。今の環境の中で大きなニーズを抱えていらっしゃるって、子どもたちの大きな選択肢の一つとしてお願いできたらと思います。</p> <p>日経新聞とかでeスポーツのことは見て、板垣先生に話したら、面白そうだという言葉が返ってきて、そこからいろんな情報を得てやってきたという流れです。今は部費1000円を生徒から買っています。最初は無料でやらせていたんですけど、20人30人になって土日もあるって言うんで、正直赤字です。生徒の元気とか笑顔があるので今はなんとかやっていますけど、来年以降はまた考えなければいけないなと思います。あと周南市に本社のある西京銀行の頭取が来たのは、知事さんがデジタルに特化した県づくりを今後考えているようで、その最先端を周南市でやろうというので、周南公立大学の先生と西京銀行の人が来られました。見学してヒントを貰いたいということで来られたので、今後そういった街づくりを考えておられるのかなと思いました。あとeスポーツのコースと部活の区分けなんですけど、部活は放課後に、大会に出たりする子たちがやっている、それに対して授業は、eスポーツをやったことがない子たちに対して、体験的に授業をやっていく、という形で考えています。これが伸びていけば、eスポーツに特化した学科を、新しい校舎を造ってやっていこうかなと思います。</p>
<p>板垣聡美委員</p>	<p>私にスキルがあったのは、PCが使えるというスキルがあっただけです。去年、ナセフジャパンという、教育にeスポーツを取り入れる活動をしている団体のフェロー教員に就任させていただきまして、全国のeスポーツの部活を持たれている先生方との交流会が月1回オンラインで行われています。その中で、他の学校さんはeスポーツでどのような活動をされているかとか、どのような教育効果があるのかを教えていただきつつ、うちの学校でもやれることはないかと探りながらやっています。</p>
<p>中川和彦委員</p>	<p>eスポーツ部に入ろうという子どもたちが、eスポーツをどのような部活ととらえて入っているのか、それともう一つは、tysの映像にもありましたように、ゲームを通して農業問題とか社会の課題解決にも取り組むというので、あれもゲームと呼べるのかわかりませんが、いわゆるゲームと、調査したり研究したりプログラミングして発表原稿を作ったりする活動をする生徒は、入部した生徒の何%くらいいるのかを教えていただければと思います。</p>
<p>板垣聡美委員</p>	<p>今現在、部員が32名いるんですけど、その中で、eスポーツのタイトルとしてバリバリ練習をしているのは約半分くらいです。各チームを作成して、チーム内で練習をしているという状態になります。5名程度が、eスポーツをせずに活動している子がいます。その子たちは、マネージャーとして、例えば部員</p>

を募集するためのポスターを作成したり、部が良くなるために約束事の標語を作ったり、イベントに呼ばれたときにポップを作成したりしています。本当に幅が広くて、どこまでがeスポーツ部なんだろうと思うことも多いです。様々な可能性の中で自分がやりたいこと、自分に向いていることを探す場所にもなっているのかなと思います。

3.6 まとめ 一次年度の計画について

立修館の近況を理解してもらうとともに、eスポーツ教育の可能性を探る。次年度は、eスポーツを通じて中学校時代と立修館入学後でどんな風が変わったか、進路がどういう風になったかという事例を出して報告会を行う。

3.7 資料



※文科省チャソ礼

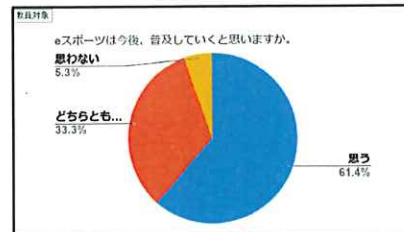
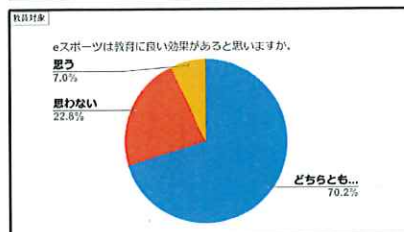
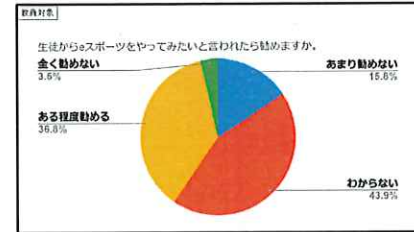
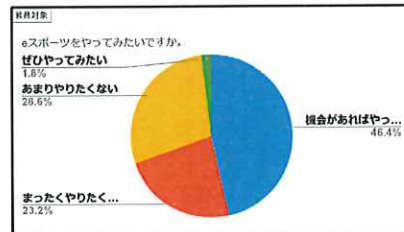
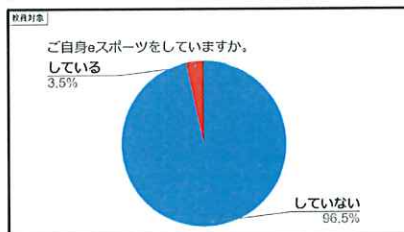
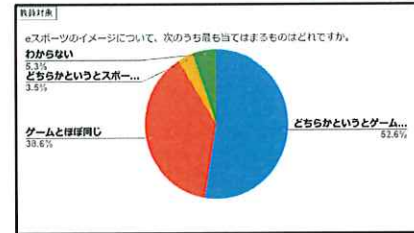
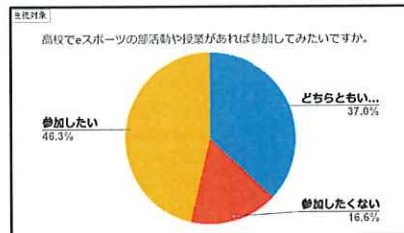
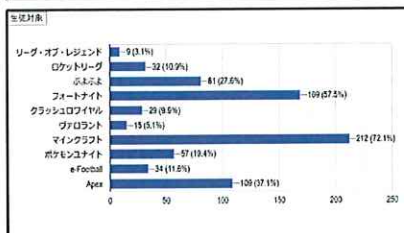
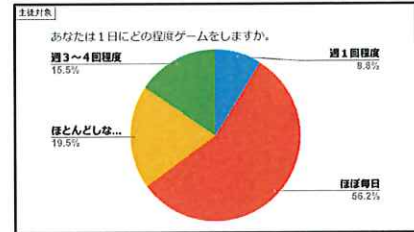
文部科学省委託事業
「専修学校による地域産業中核的人材育成事業」

アンケート結果報告

【期間】 2022年10月中旬～11月上旬

【目的】 中学校教員のeスポーツに対する認識、および中学生にeスポーツがどの程度浸透しているかを明らかにし、高校でのeスポーツ教育における参考資料の一助とする。

【対象】 川中学校、上宇部中学校、小野田中学校の教員及び2年生



※アンケート結果



※tys で取り上げられた立修館



※山口県 e スポーツ協会の Youtube で取り上げられた立修館

3-9 佐賀県（担当校：佐賀星生学園）

文部科学省委託事業「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

学びのセーフティネット機能の充実強化

令和4年度 地域連携委員会（佐賀県）実施報告

開催校 学校法人星生学園 佐賀星生学園

1 地域連携委員会について

1.1 委員会のテーマ

佐賀県内での高等専修学校の認知がどの程度のものなのかを中学校を対象に調査し、調査結果から見えてきた課題への対策を検討し、認知度の向上を図ることで、高等専修学校の「学びのセーフティネット」としての地位の確立を目指す。

1.2 全体スケジュール

月	9月	10月	11月	12月
行程	委員の依頼文書発送	第1回委員会実施	アンケート回収 および集計	第2回委員会実施
実施予定日	9月14日より 順次発送	10月13日（木） 15:00～17:00	発送：10月31日 回答期限：11月15日	12月8日（木） 14:00～15:30
協議内容等	佐賀県教育委員会 への事前説明	アンケート項目の 検討	事前に市町の教育 委員会を訪問し、ご 了承いただく	アンケート結果報 告 課題の検討 等

1.3 地

域連携委員会メンバー

撫尾 知信

佐賀大学名誉教授

坂井 禎	佐賀市立鍋島中学校 校長
貞包 浩洋	佐賀市立東与賀中学校 校長
小浜 義博	唐津市立巖木中学校 校長
三浦 和輝	佐賀市教育委員会 教育部 学校教育課 義務教育指導係 指導主事
山口 昭博	佐賀県 総務部 法務私学課 私立中高・専修学校支援室 室長
松尾 洋子	佐賀県 総務部 法務私学課 私立中高・専修学校支援室 係長
小川 徳晃	佐賀県 総務部 法務私学課 私立中高・専修学校支援室
福富 功祐	九州国際高等学園 教員
久我 巖	専門学校モードリゲル 副校長
加藤 雅世子	佐賀星生学園 校長
安部 和也	佐賀星生学園 総務部長
椛島 一彦	佐賀星生学園 経営企画
岸川 美和子	佐賀星生学園 経営企画

2 第1回 地域連携委員会 実施報告

2.1 実施概要

実施日時：令和4年10月13日（木）15:00～17:00

実施場所：佐賀星生学園 多目的室

2.2 【議題1】高等専修学校に関する説明

高等専修学校の概要、特徴をはじめ、学びのセーフティネットとしての役割等について資料を用いて説明。資料①を参照。

2.3 【議題2】認知度調査アンケートについて

検討の材料としてアンケート草案（資料②）を用意し、アンケートの内容や調査方法等について、各委員から意見を募りました。

委員との意見交換

貞包委員	県内の学校ですから 80 数校から統計をとって、統計学上、有効な数字が出るのかなってというのがと思いました。だったら職員全部、大変かもしれませんがそのぐらいの何か狙いを持った方がいいかもれない。多分ですが、どの学校からも同じような割合で統計がとれてくるような気がします。 このアンケートは、次の何かを示す材料のためのアンケートとして意図的にしていくのか、それとも単なる実態調査なのかっていう点も知りたい。
加藤委員	今年度の委員会 2 回目では、その調査結果から課題を見つけて次の年度に生かしたい。
貞包委員	最終的な狙いは「高等専修学校の良さを知ってもらいたい」ですか。
加藤委員	「高等専修学校が今後どのように向上していくか」といったところが狙いです。どのような活動をしたらよいか。学費が分からない等、そういうのが分かれば、それに焦点を当てていろんな手立てができるのではないかと思う。

<p>貞包委員</p>	<p>アンケートの項目に挙げて欲しいのは、お金がどのくらいかかるか。つまり、お金持ちしか行けないというような認知があるのですけれど、実は昔の感覚ですね。それが一つでしょう。</p> <p>それから、いろいろカリキュラムが設定されてありますよね。そこで子供たちが満足しているか、していないか。それによって中学校の進路指導が変わってきます。</p> <p>自信を持って勤められるか、それとも、行き場がないから高等専修学校にお願いするのかという話です。</p> <p>あと、出口の問題です。高等専修学校を卒業したあとをご存知ですかとか、そのような意図的なアンケートを中学校に行えば、気付きのきっかけになる。中学校の進路指導を耕さないといけない。</p>
<p>山口委員</p>	<p>アンケートを PR としてうまく使うのがいいし、進路の選択肢の一つとしてあり得るということをいかに知ってもらうか。先生方が何かのときに「子供たちを送ってもいいよね」そう思っていたかためのものにも使えるのではないか。</p>
<p>坂井委員</p>	<p>保護者の方もありえますよね。PTA の役員の方でもいいです。そんな方々にも尋ねてまたいろんなギャップがわかる。何か自由記述な部分があれば、質問にない部分でまた先生方から質問とかが出てくるかもしれないし、逆に要望的なところも出てくる。そこから問題点を吸い上げていく。</p>
<p>貞包委員</p>	<p>例えば質問 2 に学校名がありますけど質問 3 は分野です。商業実務と言われても中身が分からない。学校名よりも分野の中身を知っているか知っていないか。それによって進路指導の仕方が変わってきます。</p>
<p>三浦委員</p>	<p>モードリゲルが服飾というのは分かったのですが、星生学園や九州国際がどの分野にあたるかは分からない。学校名はわかっても、分野が結びつかないということがある。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>実際、不登校や発達障害だから、星生学園、九州国際にというような動きです。不登校を受け入れている学校というのが表に出過ぎていて、分野は薄い。現場では職業教育よりもまずは子供たちの自立を何とかしなければならない。</p>
<p>撫尾委員</p>	<p>80 校にどれくらい意味があるのかと考えると、1 校 3 名ぐらい、いろんな立場の人、教務主任とか管理職とかにもお願いして、そうなるかどうかという質問も増やす必要がある。</p>
<p>貞包委員</p>	<p>人数を増やして整合性を高めるとすれば、80 数名だと少ない。例えば、240～250 人の学校基準に 3 人とするならば、鍋島中はその倍だから 6 人とかいう、そのぐらいの感覚です。</p>

小浜委員	<p>学校に数を振られて誰でもいいのか、2人3人とか言われるとなかなか誰がするっていうのも難しい。管理職に対してお知りになりたいのか、現場の3年担任の先生に対してお知りになりたいとかっていうところでも違う。</p>
安部委員	<p>こういう学校があってこういう教育がしっかりあってってことを知ってほしいというところのニーズを考えれば、管理職の先生は知らないということはないので、3年の担任、学年チームのところ、ぜひアンケート協力お願いしますと言った方がより有効だなと考えます。</p>
福富委員	<p>専修学校のイメージってどんなのを持たれているのか。設立当初、高校中退の方とか、高校から転校する子たちも、ちょっとやんちゃな子たちとかがあふれて、行き場なくなった子たちのセーフティネットっていうところで高等課程を作ったっていうのがありますし、とんでもなく悪い奴がいるだろうって、いまだに言われるときがある。</p> <p>でも、教師対象学説とかに来てくださると、全然イメージと違ったと言って帰ってもらえたりしているのですけど。話せばすごく伝わりますが、過去20年ぐらい前に送った生徒1人の印象でその学校のイメージをずっと持ってらっしゃる先生たちも多いので、それをアップデートする機会が欲しいなと常々思ったりします。</p> <p>自由記述ができれば、高等専修学校に対してのイメージはどういうものがありますかといったことを聞きたい。</p>
貞包委員	<p>IQじゃなくて、EQに世の中は向かっている。もうアップアップ溺れそうなのが特性や不登校の子で、たまたまその年代だから溺れそうになって、そこを救ってくれる高等専修学校であって欲しい。価値的、地味的には普通高校と変わらないように持ってきてほしいというのが私の願いではあります。持っている秘めた能力を、ここだったら出せるよっていう指導を中学校が行って、高等専修学校と連携連動していくのが夢であり、理想です。となると、このアンケートを使って中学校の進路指導にどう食い込んでいくか。ある程度意図的にこのアンケートをもとにぐっと引っ張るような形に持っていった方がいい。</p>
岸川	<p>前段に説明したような高等専修学校の内容を知っているかというアンケートの取り方、そういった方向に少しひねっていくことで深くなると、ご意見を聞いて思いました。</p>
小浜委員	<p>ここの場でアンケートの内容を決めるのではなく、こういう意見をいろいろ参考にしながら作られていくと良い。</p>
安部	<p>今決めようとしたら時間がありません。ベースの部分しっかり固めて、主軸さえ決まれば、後は、はめ込んでいく形を取れば十分なものになってくると思いました。</p> <p>先生たちからいろんな視点での作り込みの指南をいただいたので、高等専修学校</p>

3校で後ほど詰めたいと思います。

2.4 まとめ

今回いただいた意見を参考にして、アンケート内容を練りこみ、佐賀県内の中学校への認知度調査を実施する。

2.5 資料

資料① 高等専修学校の解説

文部科学省「未来をひらく高等専修学校」の説明内容を基に、佐賀星生学園における実態や佐賀県の傾向等を交えて、高等専修学校について解説（スライド 合計 32 枚より抜粋）

高等専修学校の特徴と現状
令和4年度文科省委託事業「高等専修学校の現状調査に関する調査研究」
地域調査分冊 第1回 地域調査委員会(2022/10/3)

専修学校
高校卒以上を入学対象とする学校
専門課程(専門学科)
中等卒以上を入学対象とする学校
高等課程(高等専修学校)
現在404校で約3万4千人在籍(令和2年度 5.1統計より)
一般課程(普通科の学校)
入学対象を問わない学校

2021年度 九州各県1000人あたりの不登校児童生徒数
小学校 中学校 高校
福岡県 15.4 48.7 11.9 13.0 8.7 13.6
佐賀県 13.0 38.1 8.7 13.6
長門県 15.0 39.5 7.7 13.6
熊本県 13.6 43.6 9.2 13.6
大分県 17.1 46.4 10.5 13.6
宮崎県 12.6 36.2 7.6 13.6
鹿児島県 14.3 38.0 6.7 13.6
沖縄県 18.6 43.0 15.3 13.6
九州で2番目に少ない県

生徒数の内訳
高等専修学校の生徒の約2割が不登校経験の生徒です。
不登校経験の生徒 約20%
高校中退・既卒生徒 約2%
在籍生徒数17052人のうち、
不登校生徒数3069人(17.8%)
高校中退・既卒生徒数324人(1.9%)
高等専修学校に入学し、不登校が解消され自立する生徒も多い

佐賀県私立高校平均学費と星生学園の学費
私立高校(私立) 平均学費(約)645,333円
星生学園(私立) 平均学費(約)550,000円
私立大学(私立) 平均学費(約)1,000,000円
私立専門学校(私立) 平均学費(約)200,000円
私立短大(私立) 平均学費(約)600,000円
入学料 授業料 施設設備費

本学の実態報告(R4.5.1の生徒数)
ワーク(毎日校舎)のみの集計
問5. 貴校に在籍する生徒数の内訳について、不登校生徒数および高校中退・既卒の生徒数ならびに在日外国人生徒数も含め、お答えください。
全学年 134人 101人 5人 0人
何らかの精神的・身体的障害を抱える生徒 約62.6%

高等専修学校で叶える夢の職業
クリエイター系: プロデューサー, ディレクター, プログラマー, フランナー
エンターテインメント系: 俳優, 声優, ミュージカル俳優, ミュージシャン
その他: イラストレーター, アニメーター, マンガ家, 脚本家, モデル, YouTuber
特に、専門課程内部に高等課程を持つ形態の学校は、専門課程の強みを生かしたカリキュラムを形成しているところが多い。

資料② アンケート草案

「高等専修学校」の認知度調査アンケート

(学校名 _____ 回答者氏名 _____ 役職 _____ 教員歴 _____ 年)

この調査は、高等専修学校の認知度を調査するものです。オンラインまたはFAXにてご回答いただけます。
ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

各質問の該当番号に○をつけてください。

質問 1 : 「高等専修学校」という学校種を知っていますか。

①よく知っている ②知っている ③少し知っている ④知らない

* 「高等専修学校」に対するイメージを簡単にお書きください。(自由記述)

(_____)

質問 2 : 佐賀県内の以下の高等専修学校を知っていますか。* 知っている学校すべてに○をつけてください

①九州国際高等学園(佐賀市) ②専門学校モードリゲル 高等課程(唐津市) ③佐賀星生学園(佐賀市)

質問 3 : 高等専修学校では各学校の特色を活かしたカリキュラムが行われていることを知っていますか。

①よく知っている ②知っている ③少し知っている ④知らない

質問 4 : 高等専修学校は私立高等学校と同程度の学費であることを知っていますか。

①よく知っている ②知っている ③少し知っている ④知らない

質問 5 : 高等専修学校では高等学校と同様に保護者等の年収に応じて、経済的支援制度(就学支援金、奨学給付金等)を受けられることを知っていますか。

①よく知っている ②知っている ③少し知っている ④知らない

質問 6 : 高等専修学校から大学・短大等の受験ができることを知っていますか。

①よく知っている ②知っている ③少し知っている ④知らない

質問 7 : 高等専修学校では様々な就職支援を行っていることを知っていますか。

①よく知っている ②知っている ③少し知っている ④知らない

質問 8 : 中学校卒業後の進学先の一つとして、生徒・保護者に高等専修学校を紹介する機会がありますか。

①多くある ②ある ③少しある ④ない

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。FAXで返信する場合は、0952-97-8942 まで送信ください。(送付状は不要)

3 第2回 地域連携委員会 実施報告

3.1 実施概要

実施日時：令和4年12月8日(木) 14:00~15:30

実施場所：佐賀星生学園 多目的室

3.2 【議題1】アンケート調査結果について

調査結果について報告書による説明を行う。資料③を参照。佐賀県内の中学校(対象：進路指導または3学年担当)における高等専修学校の認知度は概ね高い傾向が示された。報告に対する委員からの意見は以下のとおり。

委員からの意見

撫尾委員	現状、全公立中学校が対象だから標本調査なのか全数調査がはっきりしない。学
------	--------------------------------------

<p>椛島委員</p>	<p>校については全部対象としてるから、ある意味で全数調査という言い方もできます。あと、各学校に回答者数は何名というふうに依頼されたんですか。この前の会議では3名ないし5名とかという話もあったんですけど、結果的には各学校方1名ずつぐらいしか回答されていないため。</p> <p>前回の委員会の前に、それぞれ市町の教育委員会に各学校から1名という形でお願いをしております、現場にご依頼する際に内容を変えてしまうのも問題かと考え、当初の流れのまま進めたのですが、佐賀市だけお願いが遅れたこともあり、急遽、佐賀市内の学年4クラス以上の学校に関しては3名以上のご回答をお願いしております。</p>
<p>撫尾委員</p>	<p>報告にあったように、繁忙期と重なったため、複数依頼したのに1人ぐらいしか回答がなかったのかと思ったが、市町によって、依頼数が違ったということですね。</p>
<p>三浦委員</p>	<p>学校現場に調査依頼が結構多く来ていて、優先度が下がってしまうことも考えられますし、逆に担当者に渡したときにきちんとその回収ができていないことも考えられます。けれども、本当に早急に対応すべきものについては確認もしますので、学校の判断としても少し甘かった面があるのではないかと思います。</p>
<p>貞包委員</p>	<p>進路指導主事も3年担任も、結局6時間中、4時間か5時間は授業があって、その中の50分という空き時間で、優先順位が低いものは、山積みの書類の下の方へ流れていく。その中でこれだけ回答が集まっているのはすごいと思います。</p>
<p>小浜委員</p>	<p>佐賀市だけ4クラス以上は複数名とすると、偏りが出るかなと思った。今後、行う際は全県で合わせた方が良い。今年度はこのメンバーが回答したと思うんですけども、中学校は大体持ち上がりで進路指導主事や3年担任が毎年変わるっていうこともあるし、来年また行ったら、違うことが出てくるかもしれない。</p>
<p>撫尾委員</p>	<p>もしも来年も行う可能性があるとする、本当に高等専修学校と高等専門学校(高専)の違い、それをちゃんとわかった上で回答してるかどうかということがわかるような説明も加えられると良い。学費についても、授業料とその他負担金を含めての説明。大学受験についても、高校卒業資格が取れることが前提なのか、そうでないのかの説明。その辺りの設問について考慮されると良いと思います。できれば、各学校もう少し複数人に設定して、200~300人近くのサンプルが望ましい。</p>
<p>松尾委員</p>	<p>もしも地域によって認知度に偏りがあるようなら、認知度が低い地域の教育委員会様にアプローチに伺った方がいいかと思いました。</p>

--	--

3.3 【議題 2】 高等専修学校の認知度向上に関する意見交換

アンケート結果を踏まえ、佐賀県内での高等専修学校の認知度向上に関して、意見交換を行った。

委員との意見交換

貞包委員	<p>認知度向上のために、このアンケート結果をどう使っていくかということになると、例えば、高等専修学校のパンフレットに認知度はこうでしたっていう内容を入れて作る。そういう使い方をするのであれば、今回の結果を土台にして良いかと思う。</p> <p>高校卒業資格や出口、それぞれの高等専修学校において、どんな子供たちが何をしているか何が身に付いているといった月々の通信物、それから進路の通信物。そして、それぞれの学校の3年生の進路説明会（県立、私立高校）。非常に申し訳ないんですけども、高等専修学校はどちらかというと学校に対応しづらい子供が対象となる。その説明会を学校別にする等して、認知度を高めていった後に、もう少し充実したアンケートで検証しないと（成果として）数字も出てこないかと思う。</p>
岸川委員	<p>進学説明会は県立、私立学校と一緒に参加していますが、ちょっとぼやけている感じではあります。</p>
福富委員	<p>教育会館で定時制通信制進学説明会というイベントに参加しましたが、参加者が少ない。何かイベントしたら、保護者の人たちが来るかということそうではない。その手前に支援者の方々にもっと広く知ってもらうようなイベントもあり得る。かつ今、県の支援室と一緒に中学の校長会でお話させて頂いているので、管理職の先生はたまたま知っているとか、ベテランの30年以上の方々も回答したので、認知があるというだけかもしれない。</p> <p>単独（九州国際）で説明会すると、若い先生も来られていて、すごくいいなと思います。全然知らなかったということで、勉強して頂けて、学校説明会の感じがしている。中学校の先生たちの激務の中で、そういう研修会のようなものができるのかどうか。</p>
貞包委員	<p>アンケートの「高等専修学校に対するイメージ」に端的に出ています。ここでの売り（訴求点）は、「個別対応と多様性」「不登校支援」「高校卒業資格」の三つ。</p> <p>この三つのために子供が通いたくなるとか、良かったと思うのは、専門的なカリキュラムがそれぞれの学校でどういうふうに仕組みれてるか、どの程度の特徴を生かしたカリキュラムが個別最適化されているのか。これらが数値とか子供たちの笑顔とか言葉とか卒業後の進路に現れてくると思う。学費はその次に考えたい。</p>

	<p>この三つに絞って広報活動をやっていくための準備、それによって認知が定着したか、してないかというのが、内容を濃くしたアンケートで数値が見えてくると思います。</p> <p>認知度をどこまで上げるかというのに対して何をやるかの折り合いをつけたいと思います。</p>
福富委員	<p>現場で進路指導や生徒を就職させていくときに、九州国際はクラーク記念国際高校という通信制高校で100%やっていますが、星学園は高等専修学校に単独入学の生徒も多く、高卒を持たないという生徒も出されてると思うのですが、ハローワークに行っても、高等専修学校は知られていなくて、窓口の方が「何ですかそれ」「高専ですか」と悪気なく知られていなかったりしています。</p>
	<p>ましてや企業の社長さんにご挨拶で電話や訪問されたときには高等専修学校はまだ知られていない。教育関係は認知しているかもしれないけれど、企業の人たちや地域の方には、高等専修学校は知られていないと思う。これから世の中が進んで、もう高卒とか言っていられないくらい人材不足になっていくとしたら、高等専修学校の生徒たちも労働力としての企業への認知が進んでいない。企業とか、教育関係者ではない人たちに対する認知はどうやったら上がるんだろうとずっと思っていた。</p>
小川委員	<p>行政関係とかいろんな機関、団体割引でさえ高等専修学校だと認定できないとか、わかっているはずなだけど、「高等専修学校」という文言が入っていない。そこから辺も同時に認知をしていかないと生徒たちが結構その場に行ったときに困るなと思う。</p>
加藤委員	<p>福祉関係に話しに行ったりするのですが、自治会の民生員の方とか、社会福祉協議会の方とか、そんなところがあるなんて知らなかったとたくさん聞きます。地域に関わってらっしゃる方たち、児童民生委員とか、そのような人たちが知らない。知識として知っておけば、声のかけ方一つも違う。その辺りが、まだまだ足りないと思います。</p>
小川委員	<p>地区別では大体月1回の民生委員会、広い地区で代表者の方が県の民生委員会。市町では組織が少し異なり、みんなで教育を行っている地域、個別バラバラで行っている地域がある。高等専修学校の近くであれば、関われるかもしれないが、県全体となると難しい面があるかもしれない。</p>
久我委員	<p>(今年は)生徒さんがホームページを見て、この学校は合うかもしれないということで見学にみえたという方が何人かいらっしゃる。「自分で、合う学校はないだろうかと探しました」と実際に言われました。親御さんの指導もあったかもしれませんが、自分の力で探されていると感じます。自分に合っていそうな気がした</p>

坂井委員	<p>ので見学に行き、その結果、受験をしますというこれまでにない現象でしたので、ご紹介させていただきます。</p> <p>学びのセーフティネットの充実強化として、入るだけじゃなくて、出口まで持って行くのが大事かと思います。いろんな困り感、思いを持つ生徒を社会に繋げていく。そこで高等専修学校が役割を果たす。</p> <p>自分がこの学校だったら、こういう学びがあるから、力をここで身に付けられるから、いろいろな選択肢として、(県立・私立高校と)同じ立ち位置でやっていけばいいなと思う。そのためには、出先の職業、会社、大学などにも高等専修学校が強く認知されるようになるのが大事かと思います。</p>
小浜委員	<p>1回目の調査はこれで良かったんですが、アクションを起こした結果どういうふうにこれが増えたか。同じ項目のアンケート内容が必要な全部が全部でなく、ここは知りたいというところは残してもらって、また新たな項目を追加して検証して頂きたい。</p>
岸川委員	<p>今年度のこの結果を基にいただいたアイデア、対策等を考慮して、次年度に繋げたい。地域や福祉といった面でも認知を高めるといったところで、内容をまとめフィードバックさせていただきたいと思います。このように活発なご意見等いただきまして、ありがとうございました。</p>

3.4 まとめ ー 次年度の計画について

中学校では、管理職、ベテラン層において、高等専修学校は認知されていることが分かったので、これまでの取り組みに加えて、若年層の中学教員も対象とした施策や中学校の周辺にも対象を広げて、福祉関連の支援組織、地域の企業への働きかけ等も検討したい。

本年度の委員会でのアイデアや意見を基に、佐賀県や他の高等専修学校とも連携して、中学卒業後の進路の選択肢として「高等専修学校」を定着させるよう検討を進めていきます。

3.5 資料

資料③ アンケート結果の報告書

アンケート全般について

<アンケートの概要>

目的： 佐賀県内の中学校における「高等専修学校」の認知度調査

方法： 標本調査

期間： 11月1日～11月18日

設問数： 大項目8問、自由記述1問

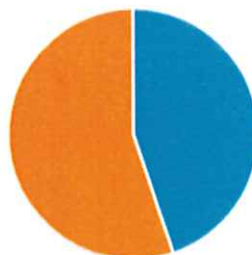
対象： 県内の公立中学校（87校） ※県立は除く
進路指導担当または3年学年担当

回答： 回答者数 86名（オンライン 62名、FAX 24名）
回答学校数 69校（回答率77%）

回答者属性

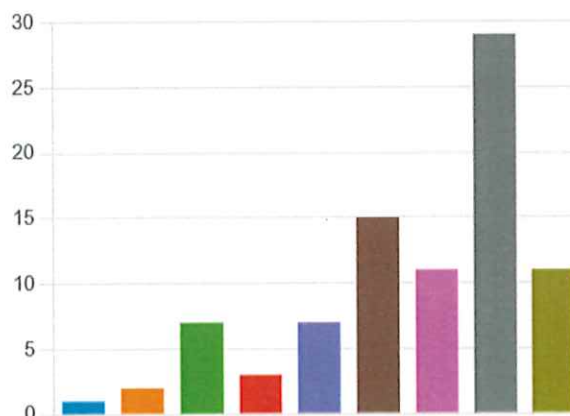
① 担当

	(人)	重複回答あり
● 進路担当	48	
● 3年学年担当	59	



② 教員歴

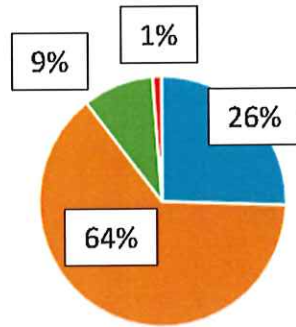
	(人)
● 1年未満	1
● 2年目～4年目	2
● 5年目～9年目	7
● 10年目～14年目	3
● 15年目～19年目	7
● 20年目～24年目	15
● 25年目～29年目	11
● 30年目～34年目	29
● 35年以上	11



アンケート回答

1. 「高等専修学校」という学校種を知っていますか。

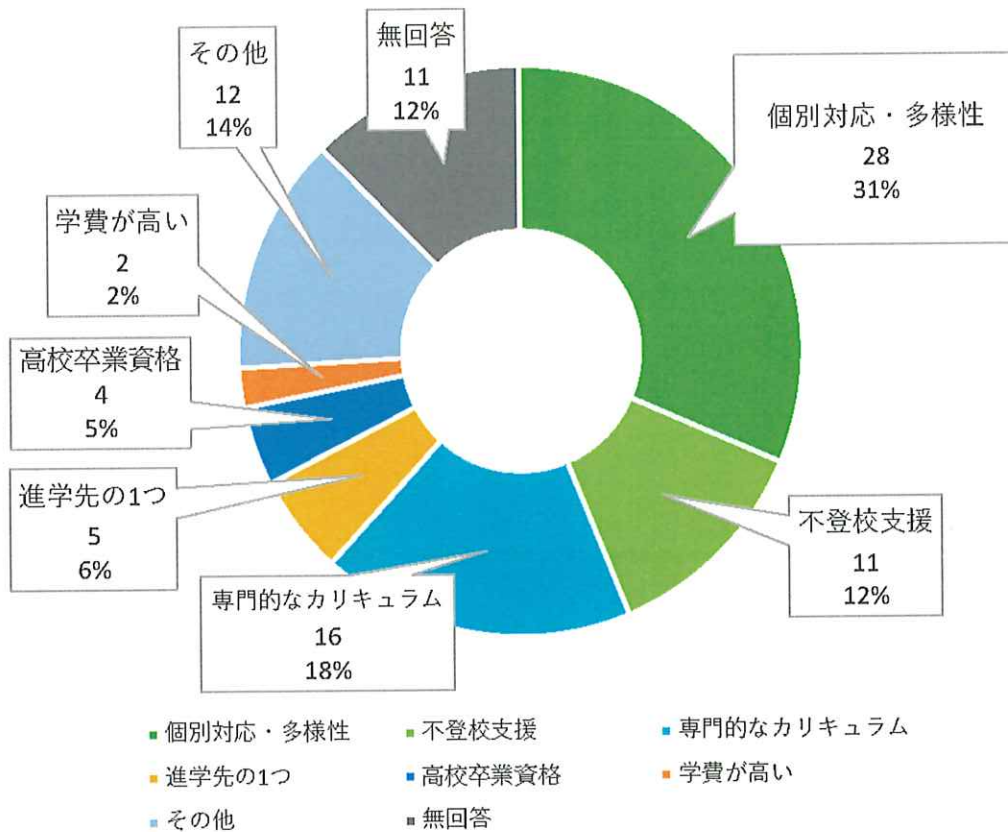
	(人)
よく知っている	22
知っている	55
少し知っている	8
知らない	1



1-2. 「高等専修学校」に対するイメージを簡単にお書きください。(自由記述)

高等専修学校のイメージ

※ 複数回答あり。延べ数89件

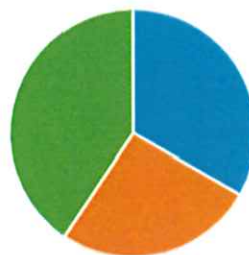


「高等専修学校」を学校種として、「知っている」以上の割合が90%となります。佐賀県内の中学校において「高等専修学校」という呼称は定着しているように思われます。

高等専修学校のイメージに関するコメントを傾向別にグラフに示しています。主に「個別対応・多様性」「不登校支援」に加え、「専門的なカリキュラム」という傾向が見られました。(ページ末尾にコメント一覧を掲載)

2. 佐賀県内の以下の高等専修学校を知っていますか。

	(人) 重複回答あり
● 九州国際高等学園 (佐賀市)	70
● 専門学校モードリゲル 高等課程 (...)	55
● 佐賀星生学園 (佐賀市)	85

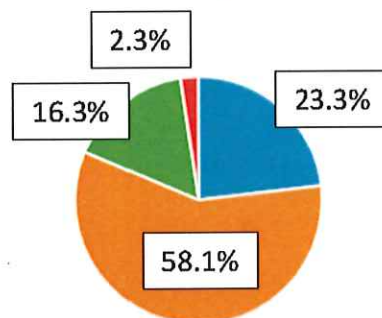


回答者85名の認知度は以下のとおりです。

- ・九州国際高等学園 81.2% (佐賀 29、唐津 11、小城 4 等)
- ・モードリゲル 64.0% (唐津 18、佐賀 11、伊万里 4、小城、鹿島、武雄、みやき 各3 等)
- ・佐賀星生学園 98.8% (佐賀 30、唐津 17、小城、伊万里、みやき 各4 等)

3. 高等専修学校では各学校の特色を活かしたカリキュラムが行われていることを知っていますか。

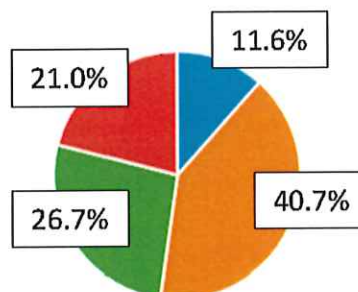
	(人)
● よく知っている	20
● 知っている	50
● 少し知っている	14
● 知らない	2



高等専修学校のカリキュラムには特色、独自性があることを、81.4%が知っていると回答しており、概ね理解していると思われるが、具体的な内容まで理解しているかは不明です。

4. 高等専修学校は私立高等学校と同程度の学費であることを知っていますか。

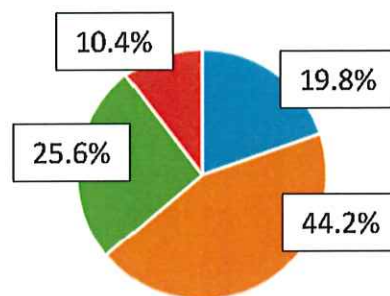
	(人)
● よく知っている	10
● 知っている	35
● 少し知っている	23
● 知らない	18



学費については、52.3%が概ね理解しているが、残りの半数近くは理解が不十分と思われる。学校での進路指導において、学費の理解は優先度が低いのかもかもしれません。もしも、学費が高いイメージがあるようであれば、是正が必要です。

5. 高等専修学校では高等学校と同様に保護者等の年収に応じて、経済的支援制度（就学支援金、奨学給付金等）を受けられることを知っていますか。

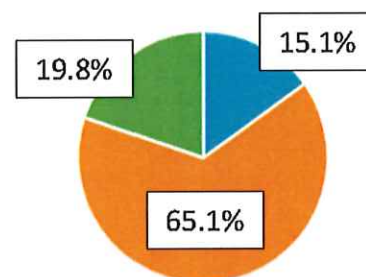
	(人)
よく知っている	17
知っている	38
少し知っている	22
知らない	9



経済的支援制度については、64.0%が概ね理解しており、36.0%は理解が不十分と思われる。先の学費と共に、費用面についての理解がやや低い傾向が見られます。

6. 高等専修学校から大学・短大等の受験ができることを知っていますか。

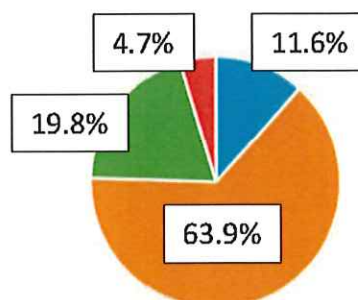
	(人)
よく知っている	13
知っている	56
少し知っている	17
知らない	0



大学・短大への受験ができることは、80.2%が概ね理解しており、「知らない」が0であることから、十分に理解されていると思われます。ただし、大学入学資格付与指定校制度、通信制高校との連携（技能連携）について正しい理解に及んでいるかは不明です。

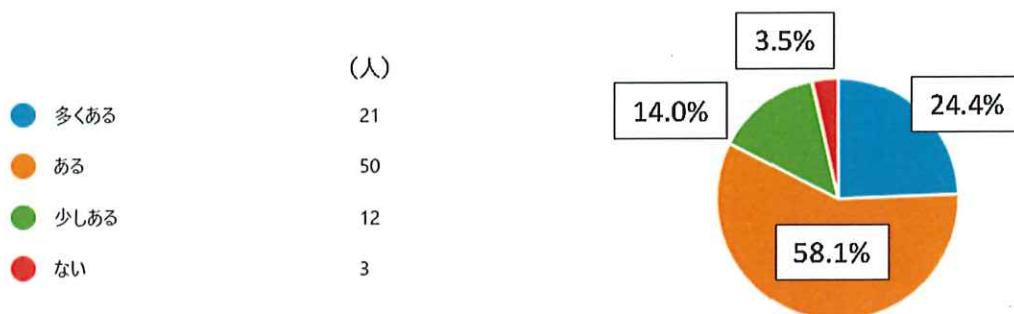
7. 高等専修学校では様々な就職支援を行っていることを知っていますか。

	(人)
よく知っている	10
知っている	55
少し知っている	17
知らない	4



就職支援については、75.5%が概ね理解しており、24.5%は理解が不十分と思われる。設問6、7の結果より、高等専修学校の卒業後の進路は、大学進学、専修学校進学、就職など様々であり、総合学科的な特色が見られる点について、十分に認知されていると思われます。

8. 中学校卒業後の進学先の一つとして、生徒・保護者に高等専修学校を紹介したことはありますか。



進路として紹介したことがあるが、82.5%となり、「少しある」も含めると96.5%となることから、高等専修学校も進路の選択肢として認知されていると思われます。

<アンケートのまとめ>

設問1の高等専修学校のイメージでは、「学びのセーフティネット」に関連するイメージを筆頭に、多様なイメージがあることが示されました。（次頁参照：コメント一覧）

設問2では、やや所在地に偏った傾向も見られました。

設問3より、高等専修学校では特色あるカリキュラムが行われていることは概ね認知されていることが示されました。

設問4、5より、学費や経済的な支援についての認知がやや不十分な傾向が見られました。費用面での不安や懸念を持たれないように周知が望まれます。

設問6、7より卒業後の進路は、大学進学、専修学校進学、就職など、卒業後の進路はさまざまであることについて、認知されていることが示されました。

設問8より進路の選択肢として認知されていることが示されました。

高等専修学校が地域の学びのセーフティネットとしての役割を担うにあたり、まずは認知されているかの調査を実施したが、全体的に「高等専修学校」の認知度は高い傾向が見られ、中学校内においては、進路の1つとして十分に定着していると思われました。また、本アンケートを通じて、高等専修学校を再認識していただくことができたと思われています。

<その他>

上記を踏まえて、各高等専修学校の独自性や特色を改めて整理し、伝え続けることが、進路の選択肢として存在を高め、結果的には「学びのセーフティネット」として地位を確立することに繋がると思われれます。

なお、アンケートの実施時期が中学校の繁忙期と被ってしまったことが回答率が伸びなかった要因とも思われました。中学校内での文書、FAXやメールの取り扱いについて一部混乱も見られ、中学校への外部からの接続についても障壁を感じました。

コメント一覧 高等専修学校のイメージ

「高等専修学校」に対するイメージを簡単にお書きください。(自由記述)	
1	さまざまな生徒に対して、細やかで幅広い教育を施してくれる学校
2	一人ひとりに合った、指導が行われていること
3	生徒の興味や関心に応じた学習ができる。
4	中学校でクラスになじめなかった生徒等をきめ細やかに指導されている。
5	様々な生徒の良さを理解し受け入れてくれる。 一人一人を大切にしてくれる
6	配慮を要する生徒がお世話になっています。
7	個別に応じた支援が丁寧に行われている。
8	生徒と特性に応じた対応
9	集団生活が苦手な生徒や特性を持っている生徒に対して、学習支援や技能習得支援をいただいている
10	手厚い個別指導
11	様々な状況の生徒を受け入れ、手厚く指導していただける学校のイメージが強いです。
12	生徒の多様化に応じて対応している学校
13	多様な生徒を柔軟に受け入れてくださる。 特色あるカリキュラムで、生徒もいきいきと取り組んでいる。
14	高等学校に比べ、よりその生徒にあった勉強・学校生活を送ることができる
15	多様な生徒を受け入れてくれる学校
16	多様性に合わせた教育 不登校（傾向）生徒の受け入れ
17	生徒にあわせて指導してくれる
18	多様である
19	ある程度、生徒のペースに合わせて学習を進めていけるイメージ
20	生徒の特性に寄り添った指導をしていただける
21	個に応じた指導を熱心にしていただける
22	生徒の多様化により要望が増えている。
23	生徒に合わせたカリキュラムが設定できる。細やかな指導をいただいている。
24	個別の対応を丁寧に行なってもらえる。一方で就学経費がやや割高である
25	多種多様な教育
26	様々な事情を持った生徒も受け入れてくれる
27	生徒の希望に対応した学校が多く設立されている。 生徒の進路選択としては、なかなか結び付いたものになっていない。 ていねいな（生徒の実態に即した）指導をいただいている。 費用がかかる。
28	より専門的なことを学べる
29	様々なコースが準備され、資格取得や進学などの子どもたちの進路実現を支援する学校
30	専門的な分野に関する内容を学習する
31	世の中の実情に即した職種や学習形態を目指した学校。時代に素早く適応している学校。
32	就職に役立つ専門知識・技能を身に着けることに重点を置いている
33	実務的なことを学習する学校
34	多様なコースや学科があり、楽しく専門性を身に付けることができる。
35	就職に活かせる技能や知識を修得するための学校。「専門学校」と言われることも。
36	各学校で特色ある教育が行われている。
37	教育活動の幅が広い。 卒業後の進路について、分からないことが多い。

38	実技ベースの授業が多い。 高等学校よりも早く希望とする業種に携わることができる。
39	レベルが高い
40	専門技術が学べる 自由な雰囲気 通信制
41	専門的な内容を学習するイメージがある
42	県立高等学校と異なる特色を持ち、通信制の活用と職業の実技や実務を身につけさせてもらっている学校。
43	不登校の生徒なども受け入れていただき、個別にきめ細やかな教育をしてもらっている
44	最近増えてきている。 不登校や大人数が苦手な生徒の進路の選択肢が増えた
45	不登校傾向の生徒を受け入れてもらえる 生徒1人1人に対応してもらえる 通信課程をとると学費が高い
46	中学校で不登校だった生徒や学校生活になじめなかった生徒が、自分のペースで学校生活を送りながら学習や興味のあることに取り組むことができる学校。また、通信制高校と連携を取りながら高卒認定を受けることができる学校。
47	不登校の生徒でも意欲があれば学べる学校であること。服飾など専門的な勉強ができる。
48	不登校の生徒たちが学ぶ学校
49	不登校や大人数が苦手だった生徒が希望する学校というイメージ
50	中学不登校の生徒などを受け入れる
51	高校に行けない子の受け皿となってもらっている
52	高等学校とは、別の内容の知識や技能を学ぶところ。最近のイメージとしては、不登校など困難を感じている生徒の受け入れを積極的に行っている。そのため、学ぶ機会が増えた。
53	不登校傾向の子が多い
54	高校卒業の資格が取れる
55	高卒の単位を通信性で取得しながら、残りは専門的な技能教科を中心に学習し、様々な資格も取れる。
56	高校卒業資格が与えられる
57	全日制高校に適應できない子供や早くからやりたい事が決まっている子供が選ぶ学校
58	進学先のひとつ
59	高校進学が厳しいと思われる生徒たちの選択肢になる。
60	中学校卒業後に進学する専門学校等
61	中学校卒業後の進路選択の1つとして期待している。
62	学費がやや高いイメージがあります。高等学校卒業の資格を取得するため通信制課程のカリキュラムを付帯してあるので、その分が上乗せされているので仕方はありませんが。
63	・進学先としては少数だが、特定の生徒が進学することが多い。 ・学費がたと比べて高い
64	他の高校との違いがよく分からない
65	高校ではないが…
66	以前は、高等専修学校を修了後に、高校卒業資格を取りなおさなければ、大学を受検できないという認識でした。
67	修業年限は1年以上で、それぞれの学科で定められている。3年以上の課程を修了した者は、専門課程（専修学校課程）に進学することができる。文部科学大臣が指定した高等課程を修了した者は、大学入学資格が得られる。
68	最後のセーフティネット
69	高校でもなく専門学校でもなく…
70	自由な校風
71	高等学校よりも自由裁量が多くなるイメージ
72	学校によっては連携カリキュラム等により、高卒の資格が取れる中学校卒業後の上級学校。 子供の状況に応じて、ふさわしい専修学校で学ぶというイメージ
73	通信制サポート
74	高等学校とは違った教育を受けられる
75	本中学校の近くはない

第4章 まとめ ～事業最終年度へ向けて～

昨年度より3か年の計画で取り組みが行われている本事業は、発達障害や不登校等の特別な配慮が必要な生徒を多数受け入れ、これらの生徒の学びのセーフティーネットに大きく寄与している高等専修学校において、教職員を中心としつつ、外部機関等との連携も含めた実効的な教育体制（「チーム高等専修学校」）の整備を推進していく事業である。□

今年度のアンケートは、『高等専修学校の社会的認知度及び支援体制向上』をテーマに、毎年実施の『高等専修学校の実態に関するアンケート調査』と、新たな調査として、各都道府県の教育行政における高等専修学校の認知度と支援体制の現状を把握するために、『高等専修学校設置都道府県対象 専修学校高等課程（高等専修学校）の認知度等に関するアンケート調査』も実施した。前者に関しては、昨年度まで実施してきた調査項目と設問の構成を再検討し、大幅な変更をおこなった。調査項目については、効果的な設問になるよう、文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育振興室へのヒアリングも行い、その内容を含めて検討し設定した。

令和4年度の『高等専修学校の実態に関するアンケート調査』では、地元企業への就職状況や地域組織との連携の実態を『高等専修学校の社会貢献度』とし、普通高校にはない特色ある取り組み事例を『多様性に応じた教育の実践』として、その状況を調査した。

その中で、今年度の新たな設問であるST比（教員一人あたりの生徒数）についてみると、8までの学校が多く、一般的にST比が小さい方が手厚い指導が受けられると考えられているため、高等専修学校では比較的手厚い教育が受けられる環境にあることがわかる。一方で収入に占める人件費比の割合は、40%～80%の学校が多く、手厚い教育に掛かる人件費の割合は高い傾向にあることも明らかとなった。

多様性に応じた教育を実践している高等専修学校では、入学後の不登校経験生徒の状況も注目のテーマである。今年度調査では、不登校が改善した生徒の割合が61.9%と高い結果が報告され、サポート事例にも送迎バスによる登下校支援や自分で担任を選べるパーソナルティーチャー制度の導入など、特色ある取り組みや工夫が見られた。この他にも人数クラスの編成や、学習環境への配慮など、生徒一人一人に配慮した取り組みは多くの高等専修学校で行われていることが改めて確認された。一方でインターンシップやICT教材の導入など、労力と費用が掛かる取り組みが進んでいない現状も報告され、特にICT等活用の教育支援システムの導入は優先順位が高い傾向にあることが明らかとなった。学びのセーフティーネット機能の充実強化には、さらなる支援体制の強化が必要であることも浮き彫りとなった。

高等専修学校の社会貢献度の指標のひとつである地元企業との関係について、企業就労者の内、同一都道府県内に就職した生徒の割合は87.1%と高く、障害のある生徒に関しては、ほぼ同一都道府県内での就業となっている。今年度の新たな設問である高等専修学校に指定校求人を出している企業数についてみると10社前後の学校が多くなっている。さらに、地元企業との連携割合についてみると43%で、企業を含め何らかの外部組織と連携をしている学校は69.8%と高く、地域との連携の中で多様な生徒の貴重な体験の場が生まれ、良い影響が出ている事例も報告されている。

『高等専修学校設置都道府県対象 専修学校高等課程（高等専修学校）の認知度等に関するアンケート調査』では、高等専修学校設置都道府県を対象に、高等専修学校の認知度や期待感と授業料減免補助制度及び運営費補助等について調査を実施。25の都道府県から回答を得た。特に授業料減免補助制度及び運営費補助等については、多くの地域で支援が行われていることが明らかとなった。

これまで同様の調査の実績はなく、各都道府県の教育行政において、高等専修学校がどのような存在であるかが比較・参照できる資料として活用が期待される。

成果の普及に関しては以下の通りである。近年では、実態調査アンケート結果のデータ提供の依頼も増加傾向にあり、いつでも迅速に対応できる体制を構築する必要がある。このアンケート結果を来年度につなげ、いかにしてこの情報を発信していくかなどをこれまで以上に議論し、高等専修学校の社会認知度を高めつつ、

成果の普及へ向けて

- ①成果報告会（令和5年2月8日）や地域連携員会等を実施し、広く成果の普及と情報発信を進める。
- ②令和4年度実態調査アンケート結果報告書及び、事業実績報告書を全国高等専修学校協会会員校（183校）に配布。情報共有を図る。
- ③実態調査アンケート結果及び、地域連携委員会報告書（8地域分）については、本校及び全国高等専修学校協会HPでも閲覧可能に。
- ④実態調査アンケート結果に関しては、高等専修学校関係のみならず、必要とされる機関があれば、すぐに提供できる体制とする。

来年度の取り組みについては以下の通り。取り組みの好事例をさらに深掘りし、高等専修学校の魅力の一つとして発信。社会的認知度の向上につなげていく。

最終事業年度へ向けて

- ・今年度までの内容を踏まえたテーマで、最終年度版「高等専修学校の実態に関するアンケート調査」を実施。関係データは蓄積を継続。
- ・引き続き高等専修学校の社会的認知向上の取り組み事例の収集。
- ・これまでの実態に関するアンケート調査で報告された**好事例の掘り起こしと、取り組み情報の発信方法を検討。**
- ・これまでの実態に関するアンケート調査で明らかになった、**様々な格差問題へのアプローチ方法の検討。**
- ・地域連携委員会での協議内容や報告をもとに、**他の地域でも連携体制「チーム高等専修学校」構築の推進。**

文部科学省委託事業
令和4年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
学びのセーフティネット機能の充実強化
高等専修学校の機能高度化に関する調査研究

高等専修学校の機能高度化に関する調査研究

事業実績報告書

学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校
令和5年2月

連絡先：〒668-0065 兵庫県豊岡市戸牧 500
学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校
TEL：0796-22-3786 FAX：0796-24-2282

●本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます